

消防団長紹介

茨木市消防団 団長 西村 幸一

茨木市は大阪府の北部に位置し、大阪市と京都市の中間にあります。市内の北部は山間部が占めており、南部には平野が広がり、人口は28万人です。公共機関はJR、阪急、モノレールの3線が通り、高速道路にあっては名神高速道路、新名神高速道路、近畿自動車道が通り、交通の便利さと豊かな自然に恵まれています。また市内には、6大学と11高校が集まる文化都市であり学術研究施設が充実しています。歴史文化においては、世界的に貴重なキリシタン遺産をはじめ、古墳、参勤交代の大名らが利用した郡山宿本陣など日本の歴史を伝える重要な遺物が残っており、日本人初のノーベル文学賞作家 川端康成が暮らしたまちとしても知られています。

茨木市消防団は、昭和23年3月消防組織法が施行され、以来自治体消防機関の1つとして常備消防とともに、茨木市の防災に尽力してきました。「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に支えられ、28万市民の安全・安心のため、一致団結して水火災、警戒、訓練等の活動を献身的に行っています。現在、1本部12分団、団長以下506人（令和2年9月1日現在）の体制となっております。

私は、平成8年に入団以来、班長、部長、副分団長を務め、平成24年に分団長、そして副団長を2年歴任し、令和2年4月から団長に任命されました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、やはり10年に一度の大阪府消防大会に小型ポンプ操法で市代表として出場されたときが一番と思います。その時になりますと、分団長以下団員が一丸となり練習に打ち込む姿勢となります。それはまさに体育会系クラブ活動のようになり、若者の息吹を感じたものです。日ごろの訓練とは違い、目標を持った集団となり、暑いさなか汗にまみれてポンプ操法の練習を行いました。過去3回の操法大会に関わりました。一度も選手としてではなく裏方や選手が休んだ時のカバーを行うものでしたが、しかし年甲斐もなく張り切って参加していたのが懐かしく思い出されます。

趣味は自宅でDIY（大工仕事）、ゴルフです。地域活動（町内会、神社の祭）にも参加したりしています。

茨木市消防団の団員数が定数割れをしておりますので、機会を通じて団員を増やす努力を行いたいと思います。それと今年は新型コロナで行事が軒並み中止となりましたが、機会をとらえて各分団に伺い、団員の皆様と一緒に訓練に参加したいと思っております。